



11月号
(第439号)

武庫川女子大学
附属中学校・高等学校
総務部



企画・探究部部長 田辺 瑞歩

十月十三日、大阪・関西万博が幕を閉じました。皆さんは、何回会場を訪れたでしょうか。

誰もがグローバルシテイズン

思い返せば、二〇二五年に大阪・関西が開催地として決定して以来、開幕までの報道では期待よりも懸念の声のほうが多かったように感じます。建設の遅れや費用の問題など、ネガティブな話題が先行しました。それでも私は、一九七〇年の大阪万博が人々に大きな夢と感動を与えたという話を、親や恩師、同僚から聞いていたので、今回の万博にも密かに期待を寄せていました。

開幕当初は来場者数が伸び悩み、「時代は変わった」との声もありました。私の知人は「今はインターネットで世界の様子がわかる時代。万博に行く必要はない」と子どもに話したそうです。確かに、かつてのように「世界を知るための窓」としての万博の役割は薄れたのかもしれない。しかし、日を追うごとに来場者数は増え続け、会場は熱気に包まれました。日本の底力、そして人々の心を動かす「場の力」を改めて感じました。

別の知人が今回の万博をこう評していました。「一九七〇年の万博は、岡本太郎氏の『太陽の塔』に象徴されるように、デザイナーの魂が込められた『創造の祭典』だった。一方で、二〇二五年の万博は、訪れた一人ひとりの市民の想いが集まり、万博そのものが『いのち』を得た『共創の祭典』になったのだ」と。

私も実際に会場を何度も訪れ、国や文化、立場の異なる人々が言葉を超えて笑顔で交流する姿に何度も心を打たれました。展示を通じて世界の課題に触れ、未来の社会を想像する時間は、まさに「生きた学び」そのものでした。そこで出会った人々や感動の数は、数え切れません。

本校でも「グローバルリーダーの育成」という目標を掲げていますが、万博の経験を通じて感じたのは、「リーダー」である前に、私たちはすでに「グローバルシテイズン」地球市民であるということです。つまり、国や言語を超えて、共に生きる未来を考え、行動する一人であるという自覚を持つ人ということです。大阪・関西の地で開催された万博は、私たち一人ひとりにその意識を呼び覚ます機会になったのではないのでしょうか。

探究中間発表会二〇二五

十月十八日(土)「探究中間発表会二〇二五」を実施しました。今回は中間発表であるため、非公開での実施となりました。

本発表会のねらいは、これまでの探究活動を振り返り、自分の学びを整理して理解を深めること、

今後の活動をより充実させるために課題や方法を考えること、そして学年をこえて交流し、新しい考え方に触れることです。

第一部では、これまでに行われた国内外の研修報告が発表されました。中学グローバル研修(タイ)

では異文化に触れて感じたことを、中学二年グローバルサイエンスツアーでは「ヒトと技術の進歩と可能性」について発表しました。高校グローバル研修(北欧)では、デンマーク・フィンランド・スウェーデンでの文化体験を紹介。令和六年度高校二年創造グローバルコースGEC系(カナダ)や創造サイエンスコース(アメリカ)の発表では、現地での実習や研究体験を英語で報告しました。また、中村さん(高校二年)によるカナダ長期留学報告では、「自分の価値観が変わり、自信が持てるようになった」という言葉が印象的でした。



第二部では、中学一年から高校三年までの生徒が参加し、学年の枠をこえた発表交流が行われました。中学生は宿泊研修や修学旅行の振り返りを、高校生は個人探究やキャリア探究の中間発表を通して、互いに刺激を受け合いました。さらに、高校一年生による「来年度の校外研修企画コンペ」では、旅行会社や探究活動に関わる方々を審査員に迎え、社会とつながる実践的なプレゼンテーションが行われました。

また、課題研究の英語発表会では、高校三年創造サイエンスコース七班、高校二年SOARGローバルサイエンスコース八班が研究成果を英語で発表しました。武庫川女子大学の先生方や、アメリカ・アリゾナ州の高校の生徒とのオンライン交流を通して、活発な質疑応答が交わされました。オンライン国際交流会には、高校三年創造グローバルコースGEC系とSOARGローバルサイエンスコースの生徒が参加し、イタリア、カナダ、タイ、アメリカの参加者と英語で意見交換を行い、国際的な視野を広げました。

全校生が学び合い、刺激を与え合う充実した発表会となりました。探究を通して「学びを深め、世界とつながる」姿勢が一層育まれ、本校の探究教育の確かな歩みを感じる一日となりました。

芸術鑑賞会 学校寄席

十一月七日(金)の午後、武庫川女子大学中央キャンパス・公江記念講堂で芸術鑑賞会を行いました。今年「落語」をテーマに、日本の伝統芸能の魅力を鑑賞する時間となりました。

はじめに、笑福亭喬若さんによる「寄席入門」が行われました。「寄席とは?」「落語とは?」というテーマで、扇子や手拭いだけを使って物語を表現する落語の世界を紹介。扇子を箸や筆、手拭いを本や財布などに見立てて話を進める工夫に、生徒たちは「そんなふうに使った!」と驚きの声を上げていました。会場は終始笑いに包まれ、落語のおもしろさを体感できる時間となりました。



続く第一部では、鏡味千代さんによる太神楽曲芸が披露されました。傘の上で升を回すなどの華やかな技の数々に、「すごい!」「どうなってるの?」と歓声が上がりました。さらに、ステージ体験のコーナーでは中学一年生の生徒が出演して、笑顔で挑戦する姿に、大きな拍手が送られました。その後の笑福亭喬若さんの落語では、登場人物を顔の向きや声の調子を変えて演じ分ける巧みな話芸に、生徒たちは引き込まれていました。

第二部では、桂かい枝さんによる英語落語が行われました。「落語はイメージの芸です」と語られ、海外での公演の様子や異文化交流の体験をスライドで紹介されました。英語で演じながらも内容がしっかり伝わる落語に、生徒たちは感心していました。最後に「皆さんには無限の可能性があります。ぜひ世界に出て挑戦してください」という熱いメッセージをいただきました。

また、本校の先生による落語体験も行われ、会場は再び大きな笑いに包まれました。笑いの中に奥深さを感じた心あたたまる芸術鑑賞会となり、落語を通して日本の伝統文化の表現の楽しさを学ぶ、貴重な時間となりました。

避難訓練

十月二十三日(木)の七時間目に、地震発生時の第一次避難を想定した避難訓練を行いました。

緊急速報の放送が流れると、生徒たちはすぐに机の下に入り、安全姿勢をとりました。その後全校生がグラウンドに避難しました。「押さない・走らない・しゃべらない」を守り、落



ち着いて行動することができ、各教室からの避難経路や手順を確認しました。

訓練後には、阪神電鉄株式会社 安全・防災担当の大西達也氏を講師にお招きし、「命を守る防災」と題した講話が行われました。

講話では、電車内での安全確保や災害時の行動など、日常生活に結びつくお話をいただきました。生徒からは「普段の生活の中でも地震のことをもっと意識しようと思った」「自分の命は自分で守るという言葉が心に残った」などの感想が聞かれました。

今回の訓練と講話を通して、防災への意識を高める貴重な機会となりました。

令和七年度 公江特待生交付書伝達式

十月三十日(木)に公江特待生交付書伝達式が行われました。

公江特待生とは、武庫川学院の創設者である故公江喜市郎先生の篤志を基金として定められた制度であり、学力優秀、品行方正、全校生徒の模範である者のみ与えられるとても荣誉あるものです。

今年度は中学生三名、高校生六名が選ばれました。今後ますます学業に専心、研鑽し、全校生徒の模範として、勉学に一層いそしむことが期待されます。



【中学】

一年 竹内 日葵
二年 永井 里佳
三年 倉内 結愛

【高校】

一年 占部 佑奈 宇田賀 知衣菜
二年 西澤 理香子 細田 里湖
三年 平井 希空 山本 茉奈

異年齢交流会

十一月八日(土)、令和七年度の第二回異年齢交流会を附属幼稚園・保育園の園児の皆さんとともにいたしました。

今回は、放送部とボランティア部が活動を担当し、それぞれに工夫を凝らしたプログラムを準備しまし



た。高校生たちは、園児の皆さんに楽しんでもらえるよう、何度も打ち合わせや練習を重ねて当日を迎えました。

放送部は、朗読劇「そらめとわらとすみ」と「ミルフィユちゃん」の二作品を披露しました。朗読劇の最後には、高校三年生の高田さんが模範朗読を行い、その表現力の高さに園児たちは真剣な表情で聴き入っていました。



ボランティア部は「秋祭り／秋の風物詩」をテーマにしたレクリエーションを企画しました。「魚釣り」や「輪投げ」のコーナーでは、園児たちが目を輝かせて参加し、見事に最後には手作りのかざぐるまに思い思いの飾りをつけ、世界に一つだけの作品を完成させました。

今回の交流を通して、高校生たちは「伝える」「支える」ことの大切さを改めて感じる事ができました。次回の交流でも、年齢をこえた温かなつながりが広がっていくことを願っています。

入試に関するご案内

小学生対象 中学入試募集要項説明会のご案内

・日時 12月6日(土)
募集要項説明会 9時30分～10時15分
個別相談会 10時～11時30分
・場所 本校

中学生対象 高校入試募集要項説明会のご案内

・日時 12月6日(土)
募集要項説明会 11時15分～12時
個別相談会 11時30分～13時
・場所 本校
※詳細は、ホームページをご覧ください。

☆様々な分野での活躍☆

○コーラス部
・第78回全日本合唱コンクール全国大会
オーバードホール(10/25)
高校生部門 Aグループ 銀賞

・第78回全日本合唱コンクール全国大会
オーバードホール(10/26)
中学生部門 同合唱部の部 銀賞

○マーチングバンド部
・第47回マーチングバンド関西大会
おおきにアリーナ舞洲(11/3)

全国コンテスタ部門・高等学校の部 金賞
(中学生も一緒に高等学校の部に出演しています)

○新体操部

・第74回兵庫県中学校新体操新人大会
宝塚市立スポーツセンター(10/25)

団体競技 優勝

田中 莉音(中2) 安達まりい(中2)
中村 咲良(中2) 早瀬 莉愛(中2)
本田歩乃梨(中1)

・令和七年度兵庫県高等学校新体操新人大会

ヴィクトリーナ・ウイंक体育館(11/7)

少年女子 団体競技 Aチーム 第2位 全国大会出場
和田亜美梨(高2) 古川 愛(高2)
本田 唯夏(高2) 上田 莉瑚(高1)
坂田 菜奈(高1)

○バトントワリング部

・第47回バトントワリング関西大会
Asueアリーナ大阪(11/3)

高等学校の部 優秀賞
中学生の部 第6位 全国大会出場

○箏曲部

・第49回兵庫県高等学校総合文化祭邦楽部門演奏会 兼
第40回兵庫県高等学校邦楽コンクール
東りいたみホール(11/9)
邦楽部門 審査員賞 黒田 裕美(高2)
木岡 優音(高1)

○書道部

・第49回兵庫県高等学校文化祭書道展 兼 第71回兵庫県
高等学校書道展 兵庫県立美術館王子分館(11/7-9)
全国高等学校総合文化祭
推薦賞 富田 紗矢(高1)
特選 前田 彩華(高3) 全国総合文化祭出展

個人の部

・「税の書道」

西宮・宝塚租税教育推進協議会賞
河西 菜那(中3) 高野 夏(中3)
吉川 翔子(中2)

西宮納税貯蓄組合連合会会長賞
阪下 凜名(中3) 西平 沙椰(中3)
齋藤 新(中2) 村田 小春(中2)

佐野 真英(中1) 谷口 日向子(中1)

・第53回兵庫県私立学校読書感想文コンクール
特選 竹村 和奏(高3)

・第36回伊藤園お〜いお茶新俳句大賞
佳作特別賞 齋藤 新(中2)

12月行事予定

日	曜	行事予定
1	月	B 高3 自宅学習
2	火	高3 答案返却・学年集会・HR 得点確認表配布
3	水	高3 自宅学習
4	木	高3 自宅学習 校内人権週間(～17日)
5	金	高2 高1 期末考査 高3 短縮授業(～11日)
6	土	休日
7	日	
8	月	A 高2 以下期末考査
9	火	高2 以下期末考査 高3 定期考査成績表配布
10	水	高2 以下期末考査
11	木	高2 以下期末考査
12	金	自宅学習
13	土	自宅学習
14	日	
15	月	B 高2 以下答案返却・解説授業 高3 自宅学習 高3 三者面談
16	火	高2 以下答案返却・解説授業 高3 自宅学習 高3 三者面談
17	水	登校日 高2 以下(得点確認表配布・除草等) 高3 学年行事
18	木	自宅学習
19	金	自宅学習
20	土	休日
21	日	
22	月	A 自宅学習
23	火	休暇中の諸注意・表彰 大清掃
24	水	終業式(8:45 グラウンド)
25	木	冬季休業(～1/7) 冬季講習
26	金	冬季講習
27	土	休業日
28	日	休業日
29	月	B 休業日
30	火	休業日
31	水	休業日

※12/21(日) 第34回 オーケストラ部定期演奏会(14:30～ 公江記念講堂)